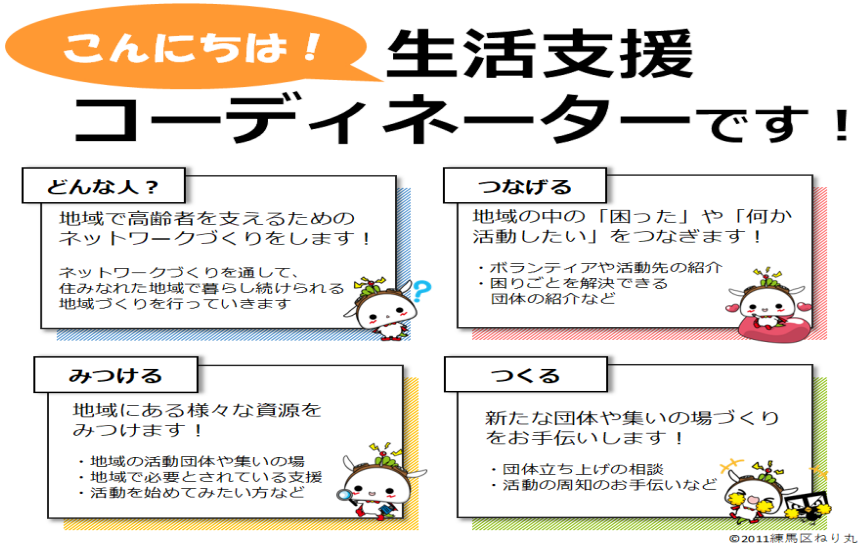
令和６年度生活支援コーディネーター活動報告

資料３

1　活動内容

令和６年４月から地域包括支援センター27所に生活支援コーディネーターを専任で１名配置しました。



2　協議体の開催

区全域協議体　生活支援コーディネーターの取組報告
基本地区協議体で抽出された課題についての意見交換

【参加者からの意見】
→　居場所同志のつながりが必要。協議体で情報共有や連携が強化できる。
　　活動の継続には、多世代や多職種の関わりが必要。

基本地区協議体（４地区）地区協議体で出た現状や課題の検討

基本地区会議と一体的開催

【議題】地域団体から活動を立ち上げたきっかけや活動内容の報告など
→　地域で居場所があっても、情報が地域に浸透しておらず、たどり着けない

地区協議体（27地区）

地域ケアセンター会議と一体的開催

【議題】「生活支援コーディネーターの役割について」
「地域でのつながりについて」「安心して暮らせる地域づくり」など課題の抽出

3　令和６年度の取り組み

目標	実績	結果
高齢者と地域団体とのコーディネート件数　年間300件	年間458件	達成
地域資源情報の登録・共有（介護サービス事業所を除く）540件	566件	達成

☆コーディネート事例

① **民間企業との連携**
巣鴨信用金庫と連携し、年金支給日に地域包括支援センターの出張相談窓口を企画。令和７年度から生活や介護などに関する総合相談、地域活動への参加の相談、包括に関連するチラシの配布や掲示を区内支店で実施。

② **移動販売車の実施**
南田中団地にてアンケートを実施。買い物に困っている方が多い結果に基づき、移動販売車を南田中団地に手配し、週１回実施。また、栄養講座を中心におおむね月に１回ビタミンカフェを開催。

◎他にも好事例多数。令和７年度も引き続き高齢者と地域団体等とのコーディネートに取り組む。

4　令和７年度の活動計画

各協議体で抽出された意見をもとに、区全域協議体にて
練馬区の取り組みの方向性を決定

方向性①：多世代が集い、高齢者が活躍できる場所づくり
方向性②：定年退職する世代の地域活動への参加促進

☆取り組み内容

方向性①
・児童館や学童に通っている小学生、保育園児・幼稚園児など、子どもとの交流を企画、実施（折り紙や昔の遊びの講師等）
・中学生以上のボランティアに興味がある生徒に対し、地域活動の運営補助、協力を依頼（共同での制作物作成等）

方向性②
・幅広い世代が集まる商業施設や金融機関などで、地域活動やボランティアに関するチラシ等を掲示、配布
・子育て世代が参加する講座等にて、保護者や保護者の親世代に向け、地域活動やボランティアに関するチラシ等の配布